

第四款 圍障

第二百四十五條

所有者が其所有地ノ周圍ニ圍障ヲ設ケルニ權

能ハスル者トシテ生ズル自然ノ結果トシテ而

シテ序法文ニ於テ特ニ明証スル所以トモノハ

主トシテ序法條ノ末段ニ掲ケタル例外ヲ示スル

必要ナルカ故ナリ

一般ノ原則ヨリ論スルトキハ土地ノ所有者ハ

皆ナクモ述ブル如ク圍障ヲ設ケルノ權能アリ

ト雖モ或ル場合ニ於テハ一箇ノ土地ヲ袋地ニ

非也其下未十惟毛猶亦其所有者以他人之屬

之隣地也通行之權利ヲ有スルコト了レ可

ク或ハ他人ニ屬スル土地ニ於テ水ヲ汲ミ土砂

其他ノ有益ナル物ヲ採取スルノ權利ヲ有スル

コトアリ可ト此大如中揚舎ニ飛テ其土地ノ

所有者ニ兼役地ノ土地ニ立入ルハ權利アリ

コト必然ナリ可ト若シ其土地ノ境界ニ於テ

戸設置セズルハ下中通行權ヲ有スル者

其鍵ヲ存スルハ兼役地ノ所有者ヲ妨害

スルコト無キ限アリ少クモ晝間ニ於テ何時ク

リトモ之ヲ閉ルコトヲ得サル可ク不總テ是等

リトモ之ヲ開クコトヲ得サル可クハ總テ是等
ノ場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ原則上存ス
ル所ノ因障ヲ設クルハ權利ハ多少ノ制限ヲ受
ク可中コト当然ナリ而

尙ホ他ノ一箇ノ理由ニヨリテ本条ニ因障ノ存
在ヲ明定スルハ必要ヲ解スルコトヲ得ヘシ
存者カ甚ク為キ因障ヲ設ケ是ニ由テ隣地ノ所
存者ハ觀望ヲ害スルコトヲ得ルヤ否ヤハ多少
疑フル所ナレ可ク或ハ土地ニ於テハ遠景ノ觀
望ハ甚ク心目ヲ喜ハシムルモノニシテ徒テ甚

土地ノ價格ヲ増加セシムルコトアリ例ハ海
 上富士山ノ眺望ノ如キ或ハ場合ニ於テハ行路
 ノ親望ノ如キニ至リテモ亦然リトテ又而シテ時
 小エテハ隣地ノ所有者ガ故意ヲ以テ其親望ヲ
 妨ルル為メ圍障ヲ築造スル如キコトアル可
 因リ隣地ニ對スル惡意ヲ以テ此ノ如キ所為
 ヲテ決シテ適當ナリト^謂フ可ラヌト言フ
 上繼モ地ノ一方ヨリ考フルトキハ隣地ヨリモ
 テ濫リニ自己ノ所有地内ノ事情ヲ觀察セシム
 ルコト又防^ト屬^ト地^トノ緊要ナル理由存スル

カ以テ本法ニ於テハ如何ナル事情アルニ拘ラ

力故ニ本法ニ於テハ如何ナル事情アルニ拘ラ
ズ總テ圍障ヲ撤利可キ以テ原則上絶對ノ物トシ
定メ難クハ然レドモ其ノ邊界ヲ定メ難クハ其ノ

所ニ百四十二條ニ於テ國境ノ撤利ノ事ニ及テ

連接ニシテ土地ノ間ニ圍障ヲ設ケルコトハ相

隣者間ノ事ニ從テ豫防スル一箇ノ方法ナルコ

ト勿論境界ト同一ナルノミナラズ亦未ダ之比

ニテ一層重要ナルモノナリ

然レ連接ニシテ土地ニシテ圍障ヲ有セザルト

キハ相隣者ノ間ニ於テ小兒奴婢又ハ家畜等ノ

爲之加へらるん妨害義々損害ノ爲又
屢々争ヲ生スルコト下レ可也初レ予此争ハ其
回救ノ重ナルニ從テ漸ク遂ニ其結果トシ
テ果行テ爲ルに至ルコト決テ之必カクナレ
可也此故ニ立法者ハ相隣者方互ニ觀察ナラ
ン場合ニ於テ此ト共ニ争ヲ好マケル端合ニ於
テ此ト争ハ爾ハ人徳ヲ困障ヲ設ケルコトヲ求ム
ルノ權利ヲ照フルヲ以テ最モ是等ノ争ヲ防ク
ニ適當ナルモ亦ト認マテ之ヲ減退セザル
困障ニ如何ナレト土地ニ於テモ相隣者方互ニ

妻求ルニ及ビテ争ハ人徳ニ及ビテ困障ナレト

因障ハ如何ナル土地ニ於テモ相隣者ヨリ互ニ

要求スルコトヲ得ヘシ或ハ人口稠密ナル市府

ト其他ノ町村若クハ部落ト如ク人口稠密ナラ

サハ土地ト人間ト區別ヲ為スルコトヲ得ヘキニ

似タリ人口稠密ナル土地ニ於テは概シテ各人

ノ資力裕カニモテ其土地ノ價格ハ地ノ場処ニ

比スレハ大ナルモノナリ從テ因障ノ義務ヲ負

擔セシムルニモ其負擔ヲ課スルコト他ノ場処

ニ比スレハ甚ク輕シトス

也レトモ因障ノ事業ニ關スル費用ノ多少ト負

擔ノ輕重トニ深ク注意スルコトナラシテ因障

亦有益乎凡此者皆目也廿八力ヲ入大十九市

府之族乎也村落之族ヲ也相隣者同接近ノ為ナ

二奴僕耕夫及ヒ家畜等ノ所為ヨリ之ヲ容易ニ

争ヲ生シ得ヘク之ヲ豫防スルコト甚外必要ナ

レハナリ大ニテハナリ也

法律ニ於テ何ナレバ場外ニ於テ也圍障ヲ要求スル

ハ權利ヲ認ムルニト雖モ決シテ土地ノ種類如何

ニ拘ラズ圍障ヲ必要トスルニ非ズ即チ本法ニ

於テハ二箇ノ住家又ハ農工業用ノ建物ノ間ニ

在ル土地ニ圍障ヲ設ケ置ク要セシメルニ即

チハノ常ニ存在スルモノ多クノ價格ヲ存スル

在ル土地ニ圍障ヲ置テ其ノ要也

千人ノ常ニ存在スル土地ニ就テ此員擔ヲ定メタルノ

キ物ノ存スル土地ニ就テ此員擔ヲ定メタルノ

三

若シ故ヲ以テ圍障ヲ設ケタル場合ニ飛身ノ

ヲ支持スル杭ハ互ニ兩箇ノ土地ニ設置スルコ

トヲ要ス何トナレハ之カ為メニ其土地ハ多少

ノ妨害ヲ受リヘク而シテ其妨害ハ雙方ノ所有

者均ク之ヲ受リヘクモノナレハナリ

本法ニ就テハ尚ホ圍障ノ高サヲ明定セリ而シ

テ立法者ノ認ル所ニ依レハ六尺ノ高サヲ以

天圍障入期スル所ノ目的ヲ達スルニ十分ナリ

トセリテ亦其利益ヲ同ノ者ニ與ヘテ其利益ヲ

亦二百四十ニ在リ

圍障ノ事ニ相隣者ハ旅ヲ均ク義務ヲ存スル所

トセリテ其ノ力ヲ為シ相隣者ノ受

クル利益ハ同ニナリ

用ニ當テ設置スル費用ナリ又ハ其維持

修繕ノ費用ナリトシテハ又平方ニテ之ヲ負

擔スルニ其トク要スル差ハ西箇ノ土地力境界ノ處

ニ旅ヲ著シク高低ヲ為シ而シテ高地ニ圍障ヲ

定メテ其ノ利益ニ對シテ其ノ外ヲ

ニ於テ著シク其低ク爲シ而シテ其地ニ田障ヲ

設ケタル場合ニ於テ此原則ニ對シテ例外ヲ

ナクハキニ非ス何トナレハ此場合ニ於テハ設

ヒ田障ノ境界線ニ設置セラレサリトスルニ

之カ爲トシ低地ノ所有者ニ無用ナル物ト云フ

コトヲ得ス亦シ辱ニ低地ノ所有者ヨリ此田障

ヲ要求シタルコトアルヘキナリ

要スルニ法律ノ目的ハ土地ノ所有者ヨリ甚

ク重キ負擔ヲ要セシムルコトヲ欲セズ從テ簡

易ニシテ且ツ費用大ナラサル田障ヲ要求スル

ニ止ル然リト雖モ表シ所有者自ラ法律ニ據ク

此所ニ比ニテ一層堅牢美麗者ハ高大ナル因
障ヲ設ケルニ欲スルト申ハ法律ニ之ヲ禁スル
キニ能ク又然ルト雖モ此場合ニ流テハ一方ノ所
存者カ自ラ資力ヲ存ニ從テ在ニ述フル如ク費
用ノ大ナル因障ヲ設ケルニ知スル場合ニ流テ
之カ為テ他ノ一人ノ所有者ヲモテ法律ノ規定
以外ニ負擔ノ増加ヲ蒙ラセムル如キハ其當ヲ
得タルモ其ニ非ス又此場合ニ流テ因障ノ維持
及ヒ修繕ノ如キハ全ク費用大ナル因障ヲ設置
セムル者ノ之ニ流テ負擔セラルトテ要ス何ト

至女性者ノミニ流テ負擔之レトトテ要ス何ト

ナレハ右ノ掲ケタル理由ノ外法律ニ流テ要求

スル板屋養々ハ竹垣等ノ如ク中因障ハ實際存在

セザル場合ナルカ故ニ現存スル他ノ堅牢ナル

因障ノ修繕ヲ要スル場合ニ流テハ竹垣板屋等

カ果シテ修繕ノ必要ナル可キヤ否ヤハ事實上

知ラ得可ラザルモノニ至テハ從テ此簡易ナル因

障ニ就テハ保存ノ費用ヲ負担スル一方ノ

所存者ノ負擔ヲ定ムルハ違テナレハナリ

一方ノ嗜好ニ從テ法律ニ定ムル板屋等ノ如

ク中因障ヲ設クルコトナクシテ石又ハ煉瓦ノ牆

壁ヲ築造スルト本ハ之カ為メニ土地ヲ要ス
 ルコト大ナルヘシ何トテレハ牆壁ノ厚サハ板
 厚竹垣等ニ比シテ大ナルモノナレハナリ此点
 ニ関シテモ右ニ掲ケタル理論ニ從ヒ板厚等ニ
 比シテ大ナル部分ハ牆壁ノ築造ヲ欲スル者
 ノ土地ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス蓋シ此場
 合ニ於テ土地ノ高低均一ナラサルカ為メ他ノ
 一方ノ隣人ニ屬スル低地ニ於テ之ヲ求ムルコ
 ト必要ナリトモハ高地ノ所有者ヨリ低地ノ所
 有者ニ相當ノ償金ヲ拂フコトヲ要スヘシ也
 又ハ、高地ノ土地ニ付キマテ掘下ナク而シテ之

者●ニ相違ハ債金ヲ掛フニトク要スルニ至リ

サレハ高地ヲ低地ニ均キマテ掘下ク而シテ之

ニ牆壁ヲ築造セザル可ラス

九二百四十八條 障

相隣者ノ一人カ自己ノ費用ヲ以テ圍墻ヲ築造

セタル場合ニ於テ法律ノ對スル所ノ目的ハ既

ニ達セラレタリト謂フ可ト何トナシハ圍障既

ニ築造セラレタルトキハ何人ノ勞力若クハ費用

用ニ依テ成レルヲ問ハズ既ニ相隣者カ争ヲ生

スルノ危険ハ全ク防止セラレタリハナリ此故

ニ其牆壁ノ設ヒ法律ノ規定ニ從ヒ板屋又ハ竹

垣等ノ如クキモノナル時ト雖モ猶ホ一方ノ所
有者ヲシテ費用ノ負擔ヲ分クニシルコトヲ要
セズ然レトモ差ニ進テ一人ノ費用ヲ以テ因障
ノ連累ヲ為スルハ者カ其連累ニ免テ他ノ一人
ヲ因障分擔ノ屋滯ニ付セリル協合ニ於テ連
累者ハ決シテ此ノ如キ分擔要求ノ權利ヲ失フ
モノニ非ズ何トナシハ此屋滯ハ連累者ニ於テ
充分ニ自己ノ權利ヲ**留保**スルハ人所為ニシテ實
際一旦他人一人ノ分擔ヲ要求セリルモ之ニ應
セザリトカ爲メニ自ら進テ築造ヲ爲セリルニ

上
未
比
場
合
於
目
弄
者
カ
費
用
ヲ
分

九ナリトカ爲メニ自ラ進テ築造ヲ爲スリルニ

止ルハナク未タ此場合ニ於テ相隣者ノ費用ヲ方

担スヘキモノトスルヤ否ヤノ点ニ就キ筆ノ決ス

ルコトニ因障ノ築造ヲ猶豫スヘキ義務ヲ示シ

コトヲ言フニ其ノ旨ハ固シク相隣者ノ義務ヲ示ス

何レノ場合ニ於テモ相隣者ノ一人ノ因障築造

ノ費用ニ就キ方担ノ義務ヲ免ルコトアルニ

之ヲ爲メニ他日因障ノ維持代償ヲ爲ス必要生

シタル場合ニ於テ其費用ノ方担ヲ免ルコト

能ハス但此処ニ述ツルカセウ法律ノ制限ニ従

テ築造シタル因障ニ関スルコトヲ要ス蓋シ此

場合ニ於ケル修繕ノ義務ハ修繕ノ必要生コル

ト共ニ隨時ニ發生スルモノナレバナリ

亦五款ニ互用費用ノ規定アリ

亦二百四十九條ニ互用ノ規定アリ

互有ナル制度ノ基礎ヲ考フルハ実ニ

相隣者ハ各自カ嚴實ニ因障ノ築造ヲ分担シ

ルノ一点ニ在リ即チ相隣者カ共ニ因障ヲ築造

スルニ必要ナル土地因障ノ材料ヲ購求シ又ハ

築造ヲ為スニ必要ナル費用ヲ分担シタルニ在

ニ五ノ本條ノ法文ハ明カニ此点ヲ示シタルモ

ノニテ且ツ法律ノ定ケル所ニ在リ共ニ費用ヲ以

五、不條ノ法文ハ明カニ此点ヲ示シタルモ

ノニシテ且ツ法律ノ定ケル所ニ依リ共用ヲ以

テ築造シタル圍障ト為事者ノ嗜好ニ依リ築造

シタル任意ノ圍障トシテ包含シテ一般ニ之ヲ適

用スルキモノナリトシテ明カニセリ

又本條ノ規定ニ依リテ互相ニ一箇ノ不分共有

タルコトヲ知ルニシテ此故ニ不法ノ下ニ於テハ

孰カノ或ル國ニ於テ論者ノ主張セシカ如ク互

有テ牆壁ニ二分シテ相隣者各自ニ屬シ即チ相

隣者ニ專權壁ニ就キ中心ニ至ルマテ各々完全

ノ所有權ヲ有スルモノナリトシテコトヲ得ス

且ッ本准ハ牆壁ノ敷地モ亦牆壁ト同ク不分明

テ相隣者ニ属スルコトヲ場ケタリ

本條新定ノタハ互有ハ場后ニ於テハ共有ナ

クテ入場ニ於テ既ニ場ケタル互有ハ性質ヲ有

スルモノナリ即チ何人ノ虫氏分割ニ依テ以不

分明止メ置ルコトヲ得ヤルモノトス不分明共

有者ニモテ此狀態ヲ止ムコト欲セル旨ヲ共有

権ヲ拋棄スル思ハ非ハレハ能ハス此場合ニ於テ

ハ其拋棄ノ物ハ牆壁及チ敷地ノ所有権ニ全ク

他ノ一人ニ歸スルキナリ

百五拾

了二百五拾條

用降者、生自カ國障ノ敷地及ヒニ事ノ負担ヲ

分任シタリトハ推定スルコトヲ明カニセリ而

シテ此推定ハ實ニ共有權ノ基礎タル所ノモノ

ナリ

不特ニ瑣ケタル推定ハ法律上ノ物ナルヲ明カ

ナリト雖モ決シテ完全ナル物ニ非ス又完全ノ

物トヤスエトヲ得ス何トヤレハ相隣者中ノ一

人カ國障ノ全部ヲ負担シテ築造シタリ事實際

ニ於テ互ハエトヲ得ヘキハニテナラス又屢々見

心所ノ事キレハナリ

本條ニ於テハ如ニ述ヘタル法律上ノ推定ヲ破

ルコトヲ得ベキ四箇ノ方法ヲ掲ゲタリ一年ノ

專有ニ至リテハ其法律上ノ推定ヲ破ルニ至

テトモ何トモ即チ其一年ノ專有ナルモノニ非

一箇ノ推定ヲ生セシムルニ過キカレハナリ而

シテ一箇ノ輕局ナル法律上ノ推定ナル場合ニ

當リ之ト曰ハレバ性質ヲ有スル他ノ一箇ノ推

定ニ依テ之ヲ破ラシムル場合ニ於テ自ラ不

ヤ法律ノ明定ヲ以テ特ニ之ヲ許スモノヲ必要

トナス而シテ是レ不モ明定セザル所ノ事ナ

ヤ法律、明之ヲ以テ特ニシテ許スモトヲ必要

トテス而シテ是レ不効、明岸セカレ所ノ事ナ
リトス立法者カ一年ノ專有ニシテ生ラレ堆定ヲ
以テ互有ノ推定ヲ破レシト是レ不効物道カ心所
込ノモノハ在テ理由ニ依レ境界ニ存スレ因障
ハ他ノ物件ト異リテ其性質上多少正当ナル專
有ノ所物ヲナスコト是レ容易ナルヘリ殆ト專
有ノ所物ノ存在差クハ其性質ニ因シテ判別ヲ
物ハコト能ハカレ可シ此ノ如キ事情ナレニ拘
ラズ專有ノ所物ニ違ヤテ置リハ是レ危険ナリ
ト言ハカレラ得ス是レ隣人ヲシテ常ニ他ノ一

人信対ニ神新ナリ、類聚スル所ヲコレ可シト命ス
 ルニ異ヤラズ以テ、如クナルトキハ常ニ争テ生
 ズルニ至ルハ明カニシテ或ハ其人ノ性質如何
 因リ異行トナリ差リ、以テ争論トスルハ容易
 ナリハシ、而テ其ノ事ハ古クテ其ノ事ハ古クテ其ノ事
 ナニ百五十一條時効也五世ナリハ
 直接ノ汚染及ヒ三十箇年ノ事項ニ因テ互有テ
 推定ヲ破リ得ルヤコトハ特ニ不案ニ於テ説明
 ナルズニテトモ要セズ、権限ハ完全ナリテ所放權ハ
 普通ノ汚染方法ナリ、而テ汚染ノ唯テ例ハ其ノ

普通ノ所扱方注リテ人注扱ハ叶ハル

合ニ於テハ三行ナル、又ノ十ノ一ノ象モ三十箇

年ノ事^{時効}傳ニ至リテハ之未足年確初ハ推定ナシ

ニ拘ラズ完全純對ノ推定ニシテ互有ノ推定ヲ

破ルコトヲ得ハシ而シテ、於テ互有ノ推定ノ及

示トシテ提出スルニシテテ許シタリ此他ノ推定

ハ一箇年ノ事有ヨリ生スル推定ト異リ明確則

除シテテ年、可ナシナル性質ヲ有スルモノナリ

不第ニ定メタル四箇ノ場合ニ就テハ今ニ逐一

詳細ノ説明ヲ為スル必要ナシ唯テ各場合ニ就

テ一ノ注意ヲ為スルコトナリトス

天一人ト雖モ自己ノ所有ニル建物ノ屋根ノ
 雨水ハ直接ニ之ヲ隣人ノ所有ニ落スコトヲ厚
 ナルモ、ナルカ故ニ若シ牆壁ノ屋根ノ水ニレ
 テ卑ニ一方ノ土地ニ、落ツルモノトナレトキ
 此事情ハ之分ニ其牆壁ノ雨水ヲ受リル土地
 一所有者ニ之ニ屬スルモノナルコトヲ証スル
 モ、ナリ又後ニ云ヌカ如リ若シ牆壁カ互有ノ
 物ナルトキハ相隣者ノ各自ニ其牆壁ニ漏孔ヲ
 穿テ又ハ凹穴ヲ設リルモノトテ得ス此故ニ實際
 牆壁ノ一面ニ於テ此、如キ漏孔若リハ凹穴ヲ

致ルルコトナリ其事情ハ互有ノ物ナ

牆壁ノ一面ニ於テ此、如キ牆孔若クハ四処ヲ

設ケルルヤハ出事情、其牆壁カ互有、物ナ

クナル工トナリ、

片ニ四傳ノ支持ニ要スル柱ハ其存在スル土地

不為ノ、多少ノ妨害ヲ興スルモノナリカ故ニ

一方ノ所有者ニ於テ隣人ノ承諾ナク隣地ニ之

ヲ設ケルコトヲ得ズ此故ニ若シ其柱ニシテ一

方ノ土地ニニ存スル場合ニ於テハ牆壁上ノ所

有確ハ其土地ノ所有者ノニニ馬スルモノナリ

之ト明カナリ

亦三人ト案モ特ニ地設ノ義務ヲ有スル場合

ノ外如河ナル方法ニ依ルコト向ハス隣地ナリ

侵犯シ専行スルニエト既ハサレハ所有権ノ大別

ニ差キテ明ナリ所ナリ此故ニ若シ土地ノ固

障タル溝渠ノ掘設ノ泥土カ全ク一方ノ地上ニ

ノニ存スル場合ニ於テハ其溝渠カ全ク此土地

ノニニ至ルニエト明カナリ

牙田ノ生^籬ノ際シテハ何人ク之ヲ殖裁シ又何人

ノ土地ニ之ヲ殖裁シタルモナリヤヲ知ルコ

トスルハ平相形ノ目標ヲ示スルコト尋々困難ナ

リトス故ニ立法者ハ生植^籬物ニ就テ此目標ヲ

...

リトス 故ニ立法者ハ生類其物ニ就ニ此目標ヲ

得ル能ハスル事ニ向テニ其一箇ヲ得ルリ即チ

二箇ノ中一箇、ニ四箇ニ於テ此國障ヲ有スル

事ト是レ其比、如キ場合ニ於テ地、三方ニ

以向事、國障ヲ有セリ、所有者ハ一方ニ於

テノミ、^{生類}其地ニ土地有ク、殖産ノ費用ヲ

負担スル事トテ義諾シタル事ト、^信信ス可ク

ケル事トナリ

本主事限リ非互有、推定ヨリ生スル結果ヲ示

セラルル事、ニシテ即チ非互有ノ目標ヲ以テ

ニ於テハ相隣者中ノ向人ニ完全ナル所有權存

スレモノト推定スレキヤヲ示セリ而シテ此事
カレヤ既ニ掲ケヨル四箇ノ注意ニ依テ明解ス
レニトヲ得ヘシ

予二百五十二条

予二百五十一條ニ掲ケヨル五者ノ推定ノ基礎

トスル所ハ相隣者ノ各自カ土地ノ境界ヨリ受

クシ所ノ利益ニ在リ而シテ土地ノ境界ヨリ相隣

者カ共ニ其位置ニ就テ負担ヲ負任シタルモノ

ト推測スレヨトヲ得ヘキナリ然レモ本案ニ規

定シタルモノト推測スレヨルモノナリ

帯言ノ如ク一方ノ土地ニ於テハ...

定シタルルモトハ
階壁ハルルモトハ
階壁ハルルモトハ

物存在シ又ハ双方ニ建物存在スルトモ一方

ノ建物ハ他ノ一方ノ建物ニ比シテ一層高キモ

ノヤルルキハ此階壁ハ段々ト昇線ニ築造セリ

レタリトスレモ本々双方ノ所チ各^カ其^カ部

費用ヲ分任シタリト信スルヤノ理由有ラスモ此

理請ハ一方ニ於テノニ建物存在スル階壁ハ於

テハ階壁ノ全部ニ適用セリル可ク蓋シ双方ニ

建物存スル階壁ニ於テハ^此階壁^カ低キ建物ヲ^ハ踏^キ踰

スル部分ニ於テ適用スルモトク得ハレ且ツ此

部分ニ於テハ階壁ハ分界ノ用ヲ物ハスルモ

トトヲ得ハシ何●トトハ一方ニ於テハ土地

者シク運物・場ナルコトニ至リシテ唯ク空間ニ

場スルハミナシハナリ

此レトモ是レ唯此ノ如キ場合ニ於テ互有ノ取扱

トシテ法律上ノ推定ヲ設ケタルニ止ル故ニ互

有ナルニトテ主張スル者ニ於テ権限ニ基キ之

ヲ説明スルノ権利ナル場ハ夕陽ナリ是レ以テ場合

ニ於テハ前ニ掲ケタル^{場合}中ニ比スレハ行書ハ

全ク及テ用テ知スモノナリ即チ之ヲ以テ法

律上ノ推定ヲ得ルニ非スレテ却テ其不足ヲ補

フルノナリ之ヲ詳言スレハ至リ相隣者中ノ一

神上ノ推定ヲ得ルニ非スレバ知テ其不足ヲ信

テモノヤリ之ヲ詳言スレハ至リ相隣者中ノ一

人ニ所有權專屬スルニトテ初明スルニ非スレ

テ相隣者間ニ不分ノ事有權存スルニトテ初明

スルモノヤリ取得時効

三十箇年ノ集積ノ事取ニ至リ初明ノ事ハ此条

ニ於テ之ヲ場ケス蓋シ實然ニ於テ何人ト策モ

自己ニ屬スル建物ノ事ハ^以斷^テエタシ^テ漏^テ壁^ノ部

分又ハ其全部ニ於テ何事ノ建物ヲモ支持セリ

ル場壁ニ於テハ寧有テ知スコト殆ト之ヲル可

クヤレハヤリ

元二カ五十三条

本条ニ掲グルル所ノ條々ハ實際事情ヲおスニ當

リ最モ屢々爭テセムル所ノ條々ニテ即チ二箇

ノ五討シタル條例ノ何れニ共ニ提出セリレド

ル條々是レナリ此ノ如キ條々ハ何れノ條々ニ依

テ何れニ依テ提出シ得ル可キノミナリ

ス^ト條々事實ノ推定ニ依テ提出シ得ルコト決

シテ少クテスル所ノ條々ニ於テハ固リ法

律上ノ推定ニ依リテ其推定ノ範圍ノ情形ノ

事情ニ基リテノミナリ其ノ實際ニ於テハ

事情ニ基リテノミナリ其ノ實際ニ於テハ

事情に基りてノニシテ其戸位に實際に流ニ

ニ符与セリルコトヲ得テ之ニ基リ推定

セテ其時ニ相及スルコトヲ得ヘシ

此頃ノニ於テ判事ニ相及被セシ征状ノ場也

コレタル他ノ能テノ信々ニ流ケルト均シク及

方ノ征状ヲ案シ何シカ果シテ真減ナルヤヲ認

定スルコトヲ要ス

示ニ万五十四条

相隣者カ互ニ分界ノ出首者タルトキハ其後

維持ハ其通ノ分租ノル可キコトを定ヤリ

頂

第一

前条

本条第二項の規定に既、
於了場了ル

地役ノ基址ニ係留、適用ヲ物々ニナリ即

手地役ノ業程地ナリ于何等ノ作物ノ新墾ヲ及

ハレハルニハスニ派スニ于唯々權利者力或ル

ヲ及スナリ妨ケヤルノ義務ヲ及ハシムルニ止マ

レト云フニ係留是レナリ而本条第二項ノ場々

於了外界ノ維持ノ義務ニ及于其方者ハ土地ノ

全界因障ヨリ及リル所ノ利益ニ附随シテ負担

セシメルニ非ス寧ロ其因障ヲ撤去スル物質及

其^敷地タル土地ノ所有者タルカ故ニ此負担

其地タル土地ノ所有者タルカ故ニ此

アルヒノ下リ故ニ若シ相隣者ノ一人ニシテ

物量ト敷地トニ因スル自己ノ所有者ヲ抛棄ス

ル場合ニ於テハ之カ所隨タル分界維持ノ負担

ヲ免ル可ヤコト当然ナリ

相隣者ノ一人カ誤^ヒト爲ル如リ物量及ヒ

敷地ノ共有權ヲ抛棄シタル場合ニ於テモ尚ホ

分界ヨリ生スル利益ハ隣々之ヲ受ケルコト有

ルヘシ何トナレバ一人カ共有權ヲ抛棄スルモ

他ノ一人ハ之カ知ノニ申スレモ其分界ヲ取毀

スモノニ非^レハナリ知レトモ抛棄ヲ爲シタ

一人ハ之ヲ為メニ地ハ利益ヲ受ルルコトヲ
得ス即チ其ノ界ニ存スニ據ルニ就テハ建物ヲ
又持モレシムルノ權利ヲ失ヒ又次第ニ獨ラタレ
續クハ利益ヲ失フハシ且ツ回障ノ敷地ヲ止
地ノ部方ヲ據テ失フモノヤリ故テ此ノ如キ不
利益ナルカ故ニ相隣者ノ一方ハ擇リニ地葉ノ
物ニテ費用ノ方地ヲ受レシト欲スルカ如キ憂
無カレハシテ之ノ如キ地葉ノ物ニテ費用ノ方
地ノ部方ヲ據ルニ因テ分地ヲ受ルルノ權利ハ
任意ノ回障ノ場々ニ止ル故ニ若シ法律上相隣

者ノ互ニ
専有シ得
一キ回障
ニ及ムル
トキハ此

任意ノ田障・地々ニ止ル故ニ若シ法庫上田障

者ノ互ニ共有シ得一キ田障ニ属スルルキハ此

権能ヲ有スルニトテシ且レ伊然ノ理ニシテ特

ニ説明ヲ要セリレ可シ何レテレハ此地々ニ於

テ相隣者ノ一方ヲ田障ニ属スル所有権ヲ地業

シヨリトスルモ猶ホ其ノ相隣者ハ一方ノ相隣者

ト連接セル土地ヲ有スル者アリ而シテ法庫上

互ニ田障ヲ共用スルキ地々ナレバキハ互ニ此

義務ヲ負ル・コト能ハリレ可ケレバナリ

互ニ権ヲ抛棄スル権能ニ及シ地業亦二項ニ掲

ゲタル他ノ二箇ノ条件ニ就テハ何等ノ後取ヲ

候々ス 法文ヲ 一説シテ 專至者ナルコトヲ 了解

レ得ハシ

天ニ白^キ五^ツヤ^キ ~~ニ~~ 條

而^テ其^レ一^ノ條^ニ 於^テハ 一箇ノ 條則^テ 明示^シ而^シ

テ 亦^ハ二^ノ條^{以下}ニ 於^テ 其^レ適用^ヲ 掲^ケタリ

既^ニ 法文^ニ 於^テ 原則^ヲ 掲^ケタル 以上^ハ 其^レ條則

ノ 適用^ニ 至^リテ 其^レ條^ニ 法文^ニ 於^テ 明示^スルコ

ト^テ 必要^トセ^ス一^ニ之^ヲ 法律^{適用}ノ 任^ニ 當^レ

ル者^ニ 依^ルルコトヲ 得^スシト 候^ル者^{アリ}ン

之^ヲ 概^スルニ 此^ノ 如^キ事^ハ 直^ニ 判^事ニ 一^任ス

ハ 千^ノ 所^ニ 以^テ タリト 候^也 然^レトモ 其^レ條則^ノ 一^任ノ

之ヲ假スルニ此ノ如キ事ニ面帶判事ニ一任ス

ハキ所ニ似タリト然モ然レトモ必ズ元一頂ノ

場也ニ據テ獨ケタル元二頂乃至元五頂ニ置テ

元一頂ノ場也ヨリ生スル伊^然事ノ結果タル性質

ヲ有スルニ止マラス尙ホ特別ノ規定ヲ包含ス

ルニ^レテ裁判所ノ原則ノ適用ノミヲ以テ

行フマト能ハサル所ニモ、アリ故ニ之ヲ明又

ニ場分ハムトテ必要ト知ス

元二頂以下ニ規定スル所ノ事理ニ至テハ此又

ニ獨リル所ニ依リ明瞭ナルコトヲ得ヘシ故ニ

詳細ノ説明ヲ為サス

千二百五十六年

凡の所有者ヲシテ毎寸ノ獨立ヲ授ハレタルヲ

トアルモ猶不足月々心榮造手物ヲシメテアルコ

ト少要ナリトハ経済上ノ原則ニシテ既ニ屢々

示シタル所ニモノナリ本業ニ於テモ亦此原則

ノ適用ヲ為シタルモノナリ

土地ノ所有者ハ一人ニテ新リニ墾墾ヲ築造シ

タルトキ又ハ後末墾墾ノ存在シタル土地ヲ新

タニ承得シタルトキ併地ノ所有者ノ物ノ三共

墾墾ノ所有権ヲ喪フヤレ可カラストスルモノ之

カハ...

権壁、共有権ヲ譲ルヤレハ可カラズトスルモ之

カガマニ取カ預寄ヲ受クルコト非リルベシ唯

ク喜所者者カ之ニ由^因テ多少ノ不便ヲ感スルモ

トセハ一人ニラ宛在ヤレ所有権ヲ有スル塔

台ニ比スレハ共有権ヲ譲渡シタル後ハ毎少共

権利ニ制限ヲ受クル^{一止}止マレハ孰中

一人ノ意思ニ依テ此^{牆壁}牆壁ヲ変更シ又ハ取毀フ

コト能ハサル可シ死レバモ比ノ如キハ石造又

ハ煉瓦造ノ牆壁ニ同シテハ由テ使用スルコト

更々稀ナル所ノ権利ナリ故ニ此ノ如キ権利ヲ

使用スルコト能ハサルカガマニ意ハ所、垣壁

い夏タサヤアルハシ且ツ共有権ヲ徵收スニ
リテハ陸地ノ所有者ヨリ田舎ノ債金ヲ交リル
ルヤルカ故ニ債權ヲ許容セラレタル所ヲ
ハ益々ハ公平ノ款務ヲ以テ嚴酷ナリトスル相
当ノ理由ヲ有セリ可シ所シテ他ノ一方ヨリ
他方スルトキハ陸地ノ所有者ハ共有権ノ債
權ニ依テ交リル所ノ利益ハ夏タ大ナルモノナ
リ何トヤレハ共有者トシテ此權壁ヲ使用スル
コトヲ得ヘリ而シテ更ニ塙壁ヲ新築スル者ハ
費用ノ費用ヲ免ル可ケレハナリ

全用ノ費用ヲ免ル可ケレハナリ

不築ノ規定ニ注ヒ共有権ノ譲渡ヲ要求スル工

トシ厚ルハ唯々塙壁又ハ道為人ノ界線ヨリ是

ノコト一尺ヲ越エザル由ク止ル若シ分界線

ト認ニ存スル俾地ノ精壁トノ向ニ一尺ヲ越エ

ル即能アルルヤハ新ク建築ヲ為サント欲ス

ル者ハ自ら所地内ニ建物を築造シ而シテ俾

地ニ存スル塙壁ヲ之ニ利用スルコトヲ得ス

不築ニ於テハ知ニ揚ルル所ノ外尚ホ互角権限

法ノ共用権利ニ就キ三箇ノ制限ヲ附シタリ厚

マ在ニ之ヲ免スヘシ

予一丘有権ノ共用ハ石造又ハ焼瓦造ノ塙壁ニ
就テノミ行フユトヨ得ヘキモノナリ(元一頂ニ
故ニ板壁又ハ土塙ヲ以テ設置シタル団障ニ因
シテハ互有権譲渡ノ権利ヲ行フコトヲ得ス設
此ノ如キ団障ノ同時ニ建物ノ一部ヲ製成ス
ル場合ト雖モ亦然リトテス此ノ如キ制限ヲ設
ケルモハ次ニ掲クル理由ニ基キタルモノ
ナリ蓋シ板障ニ因シテハ蓋シ互有権ノ譲渡ヲ
物スヘキモノトシ依テ二箇ノ家屋カ之ヲ界ト
シ是々密着スルコトナラハ蓋シノ大尖ハ危候ヲシ

し是の密着スルに干ハる者ナシト云ハレハ危候ヲシ

●シテチヤウシハル、黒マニハシ且ツ右取地
者、於テモ強制ヲ以テ傳人ト是々脆弱ナル分
身ヲ傳テ、延接スルハ、此セザル所ヤルハシ若
シ宝殿ニ於テ之ヲ直有ト為ス、少要アリトス
ルモ此ノ如キ傍々ニ於テハ相傳者カ直ニ反怒
ヲ以テ共通ノ分界ヲ設置スル、確能ク有スル
ヲ以テ是レリト為ス是レ法律ノ意也スル所ニ
シテ且ツ其禁止ス可ウガレ所ヤリ(第親ヲ四取)
又泥土ヲ以テ築造シタル壁ニ是レハ連物ヲ
之ニ支持スルノ厚ヘキ空室ノ物ニ非ヤルヲ以

テ布生ニ場ケル如ク後削ノ後渡ヲ許スヘキ中
要有テハルナリ
亦ニ若シ牆壁ト分界線トノ向ニ存スル土地カ
一尺以上ナル時クニ於テハ互有格ノ後滋ナリ
ナリルヲ故ニ之ヲ共用シ得ヘキ時クニ於テハ
亦スレモ其土地一尺ニ之ヲナルナリ方ニル
ハシ然レトモ其方ノ小ニシテ且ツ互有格ヲ
要スル者ヨリ之ニ付シ相与ノ代價ヲ并添ス
ルニトト定ハルモ猶ホ互有格ヲ取得スル者ヲ
シテ他人ニ屬スル土地ノ完全ナル取得格ヲ配

シテ他人ニ屬スル土地ノ完全ナル取得格ニ配

得セシムルコトハ法律ノ必要ヲ認メザル可キ

リ故ニ不^レ安^ニ能^クテ且有^テ権ヲ取得スル者ハ

此^レ土地ノ部分ニ純^クテ單^ニニ地上権ヲ有スルニ止

ルモノトス位ニ之ヲ可得シクモ若^シ建^物ノ存

在^スル^間自^ラ其^ノ土地ニ対^シテ相當ナル地役ノ金銀

ヲ并^ニ得^ルニ必^ズシカ使用ヲ為^スル^ノ格^ニナ^ルニ

過

キヤルモノトス(亦ニ頂^上ノ一^部ニシテ)

亦三^方互^ニ其^ノ權^ヲ共用^スル^ノ格^ニナ^ルニ(如^ク田

圃^ノ間^ニテ^モ適用^セラ^レル^ノニ^テハ^ス高^木ノ生

薙

刈^ハ溝^ノ渠^ノ等^ニ關^シテ^モ行^フコトヲ得^ルカ^ニモ^ノナ^ラズ

リ一戸四頂(此)如キ種類、回障ニ向シテハ持
互方條共用ノ權利ヲ以テ互有者、自由ヲ制限
ス一キ必要有ラズ正ツ是等、分界ハ亦是ニ没
クルモノニ非スレテ概不一時、又、ナリ若シ
此戸恆テハニ均ラズ擁ホ(絶制)ヲ以テ互有ノ物
トテ取ルル也々ニ於テハ所方条、若自、自己
ノ任意ニ、其性質物量等ヲ変シテ之ヲ変更スル
コト能ハサル可シ
是レ故テ此種、回障ニ向シテハ決シテ互有條
ナル物存在シ得可ラズト是ノニ折ス即チ二箇

ナリ物存在し得可ラスト是ノニ拒ス即チニ箇

ノ場因ニ因テ互有権ヲ生スルコトアル可シ法

律上互有ノ生垣及ニ溝渠等ニ因スル規定ヲ指

スコトアルカ故ニ之ヲ了解シ得カラズシムル也

ノ丘ニ其ニ箇ノ基因ヲ示ス一ニ即チ亦一相隣

者カ当初費用ヲ分担シテ之ヲ設置シタル事亦

二一人ニテ設置シタル者カ任意ヲ以テ隣人ニ

互有権ヲ讓渡シタル事是レナリ

本條ノ明文ニ牆壁カ未タ互有ノ物トナラザル

以前ニ於テ其所有者カ設テタル用孔アルトキ

互有権ヲ得タル者カ之ヲ塞カシムルノ權利ヲ

明定セリ即キ奪則上互有権ヲ得タル者此ノ
如キ用孔ヲ塞カシムルノ権利ヲ有スルモノナ
リ然レトモ若シ後ニ至リテ示スカ如ク其用孔
ハ人為ニ因テ設庄シタル地役ノ性質ヲ付シテ
之ヲ設ケラレタル場合ナレトキハ設キ互有権
ヲ共用シタルモノト雖モ之ヲ塞カシムルノ権
利ナシ(亦三條)互有権ヲ共用シタル場合ニ於テ
共用者ヨリ弁済スヘキ償金ニ就テハ其牆壁ヲ
築造スル當時ニ要シタル費用ヲ弁済スルコト
ヲ要セス唯テ互有権ヲ要求スル當時ニ於テ牆

ヲ要セス唯テ互有権ヲ要求スルニ當時ニ於テ精

壁ノ有スル價格ノ半額ヲ并添スルヲ以テ是レ

ソトナス(第一項)土地ノ價格ハ歲月ト共ニ増加

レ得ルモノナリト雖モ建物ノ價格ハ時ヲ

経ルニ從テ常ニ減少スルモノナリト爲ルニ對シテ

牙二百五十七條

本條亦一項ノ規定ハ互有権ノ讓渡ヲ強要スル

權利ニ法律ノ存シタル亦二ノ制限ニ因リ前段

ニ述ハタル所ニ因テ殆ト説明ヲ尽セリト云フ

可シ然レトモ特ニ其規定ノ制裁トシテ亦三項

ノ規定ナルカ爲メ猶ホ多少ノ説明ヲ要スルコ

トヤリ

一ニ注意スヘキニ建物ト方界線トノ間ニ存

スヘキ距離ハ法律ヲ以テ一般ニ之ヲ定メ可ル

コト是レヤリ此点ニ就テハ一日地方ノ習慣ニ

従フ可キモノトセリ

一ニ建物ヲ築造スル者カ隣地トノ方界線ヨ

リ法律上ノ距離ヲ存シテ工事ヲ為シタル場合

ニ於テハ此土地ノ所有者ハ何人ヨリモ更ニ請

求テ受ケルコト非サルヘシ

然レトモ若シ之ニ及シテ亦三頂ノ距離ヲ守ル

コトナク建物ヲ築造シタルトキハ其後ニ至リ

然レトモ若シ之ニ及シテ亦三頂ノ距離ヲ守ル

コトナク建物ヲ築造シタルトキハ其後ニ至リ
隣人カ建物ヲ築造セシト欲スルトキハ他日修
繕ノ便ヲ得ル為ノ法律上ノ距離ヨリ多キ部分
ヲ自己ノ建物トシ境界トノ間ニ存シ置クコト
必要ナルヘシ而シテ亦二ノ建築者カ此ノ如ク
過分ノ土地ヲ残シ置クコトノ必要生シタルハ
全ク亦一ノ建築者ノ過失ニ歸ラズモノナルカ故
ニ亦一ノ建築者ハ亦二ノ建築者ニ對シ其損害
ノ賠償ヲ為ス可キコト当然ナリ是レ亦三頂ノ
規定ノ目的トスル所ノモノトス然レトモ損害

債

既ニ生シタルノ後之カ行爲ヲ爲サシムルハ其

未ダ生セザルニ當リテ之ヲ豫防スルハ優シク

ニ若カス故ニ立法者ハ一ノ建築者カ建物ノ

工事ヲ爲ストキニ於テ隣人ノ新工告発ノ所権

ニ因リ之ヲ中止セ置タルコトヲ許セリ但此事

情ニ由ラズシモ工事ノ繼續ヲ防止スルモハニ非

サレザリ

元六款 他人ノ所有地ニ對スル觀

望及ヒ明瞭窓

元二百五十八條

下多ノ見定ニテ亦所有者ノ自由ニ一箇ノ新ヲ下

本條ノ規定モ亦所有者ノ自由ニ一箇ノ新タテ
 ル制限ヲ加ヘタルモノニシテ其制限ニ他ノ制
 限ト均ク相隣者間ノ關係ヲシテ円滑ナラシメ
 且ニ妨害爭訟ヲ避ケシムルヲ以テ目的トナス
 土地ノ所有者ハ其隣地トノ分界線ノ上ニ於テ
 建物ヲ設クルコトヲ得ヘシ而シテ其建物ノ隣
 人ノ所有地ニ密接スルコトアルヘシ若シ之カ
 為メニ隣地ノ所有者ハ遠景ノ眺望ヲ失ヒ又日
 光及ヒ空氣ノ流通ヲ妨ケラレコトアルモ建
 物ノ所有者ニ對シ更ニ何等ノ請求ヲモ為スコ

ト能ハカレルモノナリ然レトモ建物ノ所有者モ
亦分界線ノ上ニ於テ隣地ヲ直線ニ觀望シ得ル
キ窓又ハ縁側ヲ設ケルコトヲ得ス尙トナレド
此ノ如キ物ナルトキハ常ニ隣人ノ所有地内ノ
事情ヲ觀察シ其秘密ヲ侵ス如キコト有ルハキ
ノミナラス設ク是等ノ事至シトスルモ猶ホ他
人ノ土地ニ固形作又ハ流動体ヲ投スル如キコ
ト屢々ナル可ケレバナリ故ニ法律ハ此ノ如キ
窓等ヲ設ケルニハ分界線ヨリ三尺ノ距離アリ
コトヲ必要ナリトス固ヨリ三尺ノ距離ヲ存ス

トモ未タ必スシモ右ニ至フル如キ危険ナシト

コトヲ必要ナリトス固ヨリ三尺、距離ヲ存ス
ルモ未タ必スレモ右ニ逆フル如キ危険ナシト
言フコトヲ得ス然レトモ一方ニ於テハ此距離
ノ物々ニ至用ノ土地ヲ生ス可ク殊ニ人口稠密
ノ場所ニ於テハ之ヨリ生スル損害甚タ小ナラ
ザル可キノミナラス建物ニ至リテモ亦此距離
ヲ守ルトキハ充分ニ大ナラシムルコト能ハス
其價格ニ影響ヲ及ホスコト大ナル可キカ故ニ
到底三尺以上ニ之ヲ増加スルコトヲ得ス蓋シ
建物ヲ築造スルニ當リ窓ヲ設ケント欲スル部
分ハ必ずマ日光ニ對シ最も便宜ナル部分ナリ

可ケレハヤリ
本邦ニ於テハ此点ニ関スル所有者ノ權利ノ制
限ハ迄未明確ニ定メラレタルモ有ラズ慣習
ニ於テモ亦然リトス實際ニ於テハ屢々相傳者
同ノ黙止義諾ニ因テ此詭託ヲ存セタルコトヲ
リト雖モ立法者ニ特ニ之ヲ明定スルハ必要ヲ
感シタリ唯タ之ヲ改判諸國ニ比スレハ其詭託
ヲ小ヤラシム可キ事情ヲルヲ信シ之ヲ三尺ト
定メタリ

百五十九條

本條亦一頁ノ規定ハ土地運送ノ事ニ

本條亦一層ノ規定ハ土地專ク小ニシテ法律上
 ノ距離ヲ守ルコト能ハサルトキ又ハ建物設
 築造セラレ且ツ本法ノ發布以前ニ於テ窓ヲ設
 ケタル場合ニ於テ其実用ヲ見ル可シ蓋シ本法
 發布以前ニ設ケタル窓ニ關シテモ猶ホ本法ヲ
 適用スルコトヲ得ヘク所有者ハ法律發布以前
 ノ既得權ヲ主張シテ將來ノ地位ヲ維持スルコ
 トヲ得ス何トナレハ此規定タルヤ公益ニ關ス
 ルモノミシテ專ク私益ニ事依ル公益ニ及スル
 モナレハナリ既ニ存在スル所有權カ將來ニ

向テ新法ノ物ノ制限又ハ変更セラルルコト
ハ決シテ法律ハ既性ニ遊動スト云フ第則ニ因
テ妨ケラルルモノニ非カレテリ
憲ヲ設ケルモ目隠ヲ以テ之ヲ蔽ヒタル場合ニ
於テハ此憲ニ觸レノ憲ト称スルモノヲ得ス何
トテハ此憲ヨリ觸レヲ為スコト能ハサレハ
テリ然レトモ未タ之ヲ以テ明取憲ト言フコト
ヲ得ス何トヤレハ明取憲ニ俾ルカ者過ヒテ之
ヲ放任スルニシテテラス尚ホ多ク不便ヲ蒙ル
コトアリト雖モ此場合ニ於テハ目隠ヲ以テ全

ク之ヲ蔽ヒタルカ故ニ齊人ニ更ニ指過ニ因テ

コトアリト雖モ此場合ニ於テハ月隠ヲ以テ全

ク之ヲ蔽ヒタルカ故ニ隣人ニ更ニ看過ニ因テ

放任スル所ナク亦何等ノ不便ヲモ蒙ル所ナク

レトナリ

亦二項ニ規定スル場合ニ於テハ更ニ月隠ヲ設

ケ以テ親地ヲ為シ得可カラザルシメタルモノ

ニ非サルカ故ニ真実ニ明取窓アリトス此場合

ニ於テハ法律ニ隣人ノ利益ノ為メニ二箇ノ制

限ヲ加ヘタリ亦一此窓ニ因テ隣地ヲ親地カル

コト多少困難ナラシメ因テ以テ容易ニ親地ス

ルコトナクナシムル為メ明取窓ト其下部ノ床

板トノ距離ヲ定メテ二、小見又ハ奴婢等ノ請
地ニ向テ有害ナル物ヲ抛擲スルコトヲ拒リ為
ノ格子ヲ装着セシムルモノトシ且ツ其格子目
ハ是々大ナルヤナルモノトシ且ツ沙塵トセリ
諸州國ノ法律ニ従フハ明取窓ニ関シテハ尚ホ
亦三、条件トシテ必要ト為セトモ本邦ニ於テハ之
ヲ必要ト為ラス即チ明取窓ニハ開放シ得可ク
ナル硝子戸ヲ用ルルコト是レナリ既ニ格子ヲ
附着セシムル以上ハ此條件ノ如キハ極端ニ失
レ取ルモノト言ハルルヲ得ス且ツ開放ス可ク

ナル硝子戸ヲ用ルルモノトキハ衛生上必要ナル空

レ物レモ、ト言ハケルヲ得ス且ツ実定ス可ク
ケル硝子戸ヲ用ケルトキハ衛生上必要ナル空
気流通ヲ害スルコト大ナルハシ法津ハ未タ輕
マシク各人ヲシテ此利益ヲ失ハシムルコト能
ハザルヤリ
本條未頂ノ規定モ亦タ其當ヲ得タルモノナリ
法津ヲ以テ分界線上ニ突出シタル目隠ヲ設ク
ルコトヲ禁シタルハ一ニ隣人ノ權利ヲ重立ル
カ爲メヤリ此故ニ差シ隣人ニシテ格子ヲ附着
シタル明取窓ヨリ猶ホ觀望セラル、ノ憂ヤル
カ爲メ寧ロ分界線ヨリ多少突出スルコトマル

モ目隠ヲ負擔スルヲ以テ優トリトスル場合ニ
於テハ自己ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得ナル可
クス此場合ニ於テモ目隠ト窓トハ距離甚々小
ナルトキハ為メニ建物ノ所有者ハ芝線ヲ遮ラ
ルコトト是タシカルヘク是テ立法者ハ此点ニ
就テモ亦規定スル所ナカル可ラス故ニ其距離
ノ最下点ヲ明定セリ

亦二百方十條

右ニ掲ケタル法文ニ從ヒ相隣者ハ一方ヨリ要

求シ得ヘキ觀望ニ關スル距離ハ或ル事情ハ為

ニ要求シ得ヘキ觀望ニ關スル距離ハ或ル事情ハ為

未シ得ハキ觀望ニ関スル距離カ或ル事情ノ爲

ノニ要求シ得ハカヲガルモノトナリタル場合

モ亦法律ヲ以テ規定スルコトヲ要ス即チ相隣

者ノ一人カ何等ノ窓等ヲ設ケガレ建物ヲ築造

シタル場合はレナリ此時ニ當リテヤ若シ他ノ

一人カ更ニ建物ヲ築造シ如何ナル窓ヲ設ケル

コトアルモ之カ爲メニ亦一ノ建築者ニ不便ヲ

感セシムルコト非サルナリ然レトモ若シ亦一

ニ築造シタル建物ハ分界線ヲ退クコト三尺以

上ニシテ且ツ他日ニ^{至リ}窓ヲ設ケタル場合ニ

於テハ亦二ノ建築者カ法律ノ距離ヲ守ラズレ

テ設ケタル窓ニ之ヲ塞クコトヲ要スルハ勿論
ナリ

亦七款 或ル工作物ニ要スル距離

亦二百六十一條

亦款ニ於テ規定スル所モ亦相隣者相互ノ負担
ノ一ニシテ比負担タルヤ各人カ所有者トシテ
有スル自由ノ致分ヲ制限シ之ニ因テ相隣者カ
互ニ土地ノ区畫ノ嚴重及ヒ田滑ナル關係ノ障
碍ニ因テ蒙ルコトアルハキ損害ヲ豫防スルモ

ハナリ

本章ニ規定スル所ノ井戸及用水

本條ニ規定スル所ノ中第一ハ井戸及用水溜
 下水溜ニ関スルモノナリ
 井戸ヨリ生スル危険ハ決シテ其水ノ土地ニ浸
 潤スルヨリ生スル事ニ非ス何トナレハ井戸ノ
 水ハ元来地底ニ存スルモノニシテ井戸ヲ穿ツ
 モ之ヲ増加スルコトナク却テ之ヲ減少セシム
 ルニ過キカレハナリ唯タ之カカメニ隣地ノ崩
 壊陥没等ヲ来サニコトヲ恐ルハノミ根シテ井
 戸ハ甚々堅牢ナル地盤ニ之ヲ穿タル場合ノ外
 ハ木製ノ井戸側ヲ用キルモノナリ是レ井戸ニ

間ニテハ分界線トノ間ニ残スルキ距離ノ比較

上甚タ大ニテナル所以ナリ（六尺）

用水涵ハ地下ノ水脈缺乏セル場所又ハ水脈ア

ルモ甚タ深クシテ使用スルコト能ハサル場所

ニ於テ天水差クハ泉源ノ水ヲ蓄フル為メニ設

クルモ生テシテ之ヲ井戸ニ比スレハ降地ニ對

シ崩壞陥没ノ危険ヲ蒙ラシムルコト最モ大ニ

リ何トヤレハ一方ニ於テハ用水涵ノ水ハ土地

ノ平面ニ違スルコトヲ得テリ而シテ其水路甚

ク深ク且ツ大ニテハナリ然レトモ法律カ降地

トノ間ニ必要ナリト定メタル能カ井戸ノ高

夕深ク且ツ大ナルハナリ然レトモ法律カ隣地

トノ間ニ必要ナリト定メタル距離カ并戸ノ場

合ニ比レテ大ナラリル所~~以~~以テモシハ土地

ノ事情ニ因テ到底~~得~~得可~~行~~行カレコトナリ

ハケレハナリ然レトモ此~~レ~~如キ場合ニ於テハ

用水溜ノ周邊ノ~~工~~工作ヲ堅牢ニシ因テ此缺点

ヲ補フヘキナリ

本條亦一頂ニ掲ゲタル亦二ノ規定ハ下水溜及

ヒ糞尿坑ニ屬スルモノナリ其目的トスル所ハ

時トシテ通用ノ残水ヲ行路ニ排泄スルコト能

ハカレ如キ土地ノ~~形~~形状マレカ為メ漸次ニ地下

浸潤せしむル為メナルコトアルハ勿ク又時ト
シテハ糞尿等ナ地日ニ至リ土地ハ肥料トシテ
使用スル為メニ貯藏スルニ在ルヘシ此場合ニ
於テ其浸潤ヨリ生スル隣地ノ害ハ前ニ掲ケタ
ル種々ノ場合ニ比シテ甚ク大ナルヘシ然レト
モ猶ホ距離ニ関シテ異リタル規定ヲ為サズ隣
地ニ接スル由邊ニ於テ適宜ナル工事ヲ施シ以
テ之ヲ防クハキヤリ
乾燥セル地窖ニ漬シテハ亦ニ墳頂隣地トノ間
ニ存カスハ距離ハ前ニ掲ケル所ノ二方ノ一ト

ニ存スハキ距離ハ前ニ掲ケル所ノ二方ノ一
リトス何トイレバ乾燥セルカ故ニ水液ノ滲漏
ノ憂アルニ止セハナリ

斤三頃ノ規定ハ覆蓋ヲ有セサル小溝等ニ屬ス
ルモノニシテ其大小深淺ハ種々ナリトテ得
ハシ此ノ如キ場合ニ於テハ其水ノ滲漏ヨリ生
スル危険ヲ防ク為メ立法者ハ其深サノ割合ニ
應シテ多少ノ距離ヲ境界線トシテ存スハキ
モノトシ(三分ノ一)又崩壞ノ危険ニ對シテハ分
界線ノ方ノ崖ヲ斜ニ削下シ又ハ石垣若クハ木
柵ノ支持ヲ以テ之ヲ豫防セリ

若シ地ノ場合ニ於テ崖ノ傾斜ニ関シ爭マルト
キハ方判所ニ其傾斜カ四十五度ニ下ラサル角
度ヲ為スヘキコトヲ命シ得ヘシ是レ溝渠ヲ掘
浚シタル泥土ヲ積ミタルトキ自然ニ生ヌル傾
斜ノ角度ナリ

固ヨリ溝渠ト分界線トノ距離ヲ定ムルニ當リ
テハ其崖ノ上部ヨリ計算スルコトヲ必要トス

开二百六十二條

甚タ僻地ニ接近シテ林木ヲ植栽スルノキハ之

カ為メ僻地ニ前條ニ掲ケタル工作物ヨリ生ス

書タ 隣地ニ接シテ竹木ヲ植栽スルトキハ之

カ為メ隣地ニ前條ニ掲ケタル工作物ヨリ生ス

ル所ノ損害ト全ク異リタル性質ノ損害ヲ生セ

シムヘシ即チ此竹木ノ為メニ空氣及ヒ光線ヲ

失ハシメ因テ衛生ト工作トヲ害スヘシ故ニ此

場合ニ於テモ猶ホ立法者ハ所有者ノ自由ヲ制

限スルヲ憚ラザルナリ蓋シ市府ニ在テハ竹木

ハ利益ナルモト言ハンヨリ寧ロ娯樂ノ用ニ

供スルモノト認メルヲ得ヘク又真他ノ土地ニ

在テハ土地充分ナルカ故ニ容易ニ法律上ノ距

離ヲ残シテ植栽スルコトヲ得ヘケレハナリ

此点、因シ法律上ノ距離ハ植栽スル樹木ノ高
 低ニ從テ之ヲ定ムルキコト当然ナリ固ヨリ距
 離ノ標準トスヘキ樹木ノ高ハ現ニ其樹木ノ
 有ル高ガニシテ敬テ他日ニ至リ発生シタル
 後ニ有シ得ヘキ高ガニ非ス然レトモ所有者カ
 竹木ヲ植栽スルニ当リ他日生育ノ時ヲ慮ラヌ
 シテ隣地トノ距離ヲ残シタル場合ニ於テハ其
 樹木カ生長シタル時ニ至リ或ハ其取除キリ清
 束ヲ受クルコトアルベク或ハ法律ノ定メタル
 高さニ截伐スルコトヲ要スルニ至ルヘシ

此点、因シテ本法ノ規定ニ諸外國ノ法律ニ比

高トニ截伐スルコトヲ要スルニ至ルヘシ

此点ニ関シテ本法ノ規定ニ諸外國ノ法律ニ比

スレハ樹木ノ所有者ヲ過スルコト最モ寛カ

ルヘシ尙トテレハ本法ニ諸外國ノ法律ニ比シ

或ハ方界線トシテ存スヘキ距離ヲ小ニシテ

ニ同一ノ距離ニ於テモ一層長キル竹木ヲ植栽

スルコトヲ許セバヤリ

本條末項ノ規定ハ容易ニ之ヲ了解スルコトヲ

得レシ相隣者ノ各自ノ其方界線ニ存スル牆壁

圍障又ハ生籠等ニ共有者ナリ場合ニ於テ已出

事復々未ダ右ニ掲ケタル如キ制限ニ從フコト

ヲ要セザルノ理田トナラヌ何トナレハ共有者
ト雖モ自己ノ所物ニ因テ共有物ノ安全ヲ害ス
ヘキニ非ヤレハナリ且ツ水液ノ滲漏又ハ土地
ノ崩壞等ノ危険アリ場合ニ於テハ之カ物ノニ
生スル損害ハ互有ノ分界ヲ踏エテ他人ノ土地
ニ及ホスコトマル可ヤレハナリ前題ヨリ説明
シ東レハ法律上ノ距離ニ當シテハ常ニ当事者
ノ特別ナル合意ヲ以テ之ニ當スルコトヲ得ハ
シ此場合ニ於テハ特別ノ合意ハ次節ニ至リ
テ規定ヲ見ルカ如ク法律上ノ地役ニ及テシテ

人等ノ地役ヲ設定スルコトアリ

テ規定ヲ見ルカ如ク法律上ノ地役ニ及テシテ

人物ノ地役ヲ設定スルコトアリ

相隣者カ合意ヲ以テ法律上ニ存在スル相互ノ

関係ヲ變更スル権能ニ他ノ場合ニ於テモ猶ホ

適用ヲ見ルヘシ然レトモ此権能ニ決シテ完全

ノモノニ非ス即チ如何ナル場合ニ於テハ自由

ニ行フコトヲ得ヘキモノニ非ザルナリ

并ニ百六十三條

立法者ハ一ニ相隣者ノ安全ヲ保チ其關係ヲ以

テ田畑ナラシメンコトヲ欲スルニ過ギハルヲ

以テ若シ從來存在スル所ノ習慣ニ由テ本法ノ

規定ニ異ルモノナル場合ニ於テハ必スレモ本
法ノ規定ヲ適用スルコトヲ必要ト為サス一ニ
其習慣ニ從フハキモノトセリ蓋シ其習慣ノ地
方ノ必要ヨリ生スルモノニシテ概シテ具_單本_法
ヲ得目的ヲ達スルニ充分ナルモノナレハナリ
凡二百六十四條

工業ノ進歩ハ一方ニ於テ社会生活ノ程度ヲ高
ムルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ單ニ其工業ノ
為メ直接ニ使用セラル者ノミナラス尚ホ工
業ニ使用スル建築物ノ造作ニ任ズル者ニ至ルマ

テ迄テ人ノ生命健康ニ對シテ危害ヲ生セシム

テ、總テ人ノ生命健康ニ對シテ危害ヲ生セシム
ルモノナリ
此ノ如クナルカ故ニ工業ノ甚ク盛ニナル邦國
ニ在テハ危險ヲ會ニ衛生ヲ害シ又ハ不都合ヲ
生ズル如キ工場等ニ關スル取締規則ニ甚ク夥
シクシテ且ツ新クナル工業ノ發見セラルルニ
從テ益々増加スルモノナリ然レトモ此ノ如キ
規則ヲ設ケルニトハ立法ノ關スル所ニ非ス何
トヤレハ其主タル目的トスル所ハ古人ノ利益
ニ非スシテ實ニ一般ノ公益ヲレハナリ加之立

法ハ其性質上多少確乎タル物ナルコトヲ要ス
然レニ此ノ如キ事情ニ至リテハ常ニ変更ニ且
ツ改良シテ工業及ヒ其方法ト相伴フコトヲ要
スルモノナルケ故ニ立法ヲ以テ規定タルコト
決シテ其旨キヲ得タルモノニ非ス是レ改訂法
也ニ於テハ獨リ然レニ非スレテ本邦ニ在テ
モ亦同一ナルヘキ所ナリ

前諸款ニ共通ナル規則

凡二百六十五條

國府縣市町村ノ屬スル財產ハ互有及ヒ私有ニ

分テ得ハキコト既ニ前二十一條方ニ於テ及

國府監市町村、馬ノハ財産ハ互有及、私有、

分于得、又、ト既、第二十一條、第二十二條及

レ、第二十三條、於テ明記シタル所ナリ、専私有

ニ屬スル財産ニ關シテハ、是等ノ法人ハ法律上

各人ト同一ノ待遇ヲ受ケ、且テ同一ノ權利ヲ有

シ、同一ノ義務ト利益トヲ有スルモノナリ、本

條ノ明文ニ於テ、而即、規定ハ、傷方及ヒ受方ニ

于テ之ヲ適用スル、揚ケタルハ、蓋シ此意ヲ明カニ

シタルモノナリ、

然レトモ互有ノ部分ヲ物ニシテ、財産ニ多クテハ

利益ハ公益、物ノニ時トシテ、一步ヲ譲ラザル

可ラス

故ニ公ノ建物ハ牆壁ノ互有權共用ノ負擔ヲ有

スルコトナシ又公有ニ屬スル土地ニ就テハ以

路ノ地役ヲ行使スルコトヲ得ス然レトモ隣地

ノ建物ノ修繕ノ物ノ必要ナル立入權及ヒ袋

地ノ場合ニ於ケル通行權ノ如キハ公有ニ屬ス

ル土地ト雖モ猶ホ之ヲ負擔スルニ雨水及ヒ泉

源ノ水ハ自然ノ流下ハ此種類ノ土地ニ要スル

コトヲ要シ國障及ヒ境界ノ義務モ亦免レ能ハ

ル所ニシテ眺望植栽及ヒ工作物ニ關スル法

事止ノ距離

律上ノ距離モ其字ルハキ所ヤリトス

働方即チ權利ノ点ヨリ之ヲ考フルトキハ公有

ニ属スル土地ノ法律ノ所管シタル一切ノ利益

ヲ有スルモノナリ故ニ行政権ハ水ノ通路境界

因障互有権ノ讓渡法律ニ定メタル距離ノ遵守

等ヲ要求スルコトヲ得ヘカラス又各人間ニ於

テ互ニ確利ノ濫用ヲ為スカ如キ憂アルハコト

多ク行政権カ之ヲ行フニ當リテハ決シテ此ノ

如キ危険アラサルヤリ

此ノ如ク行政権ノ法律ニ定メタル一切ノ権

利ヲ行ハコトヲ得ヘシト雖モ尚ホ公有ニ属ス
ル財産ノ多メ衡方ニ於テ地役・工事ヲ要求ス
ル場合ニ於テハ其工事ニ附着シタル受方ノ条
件即チ負擔ヲ免ルコト能ハス何トナレハ此
点ニ於テ法律ノ効力ハ之ヲ^分ツコトヲ得ヘカ
ラザルモノナレハナリ